令和元年度　地域医療構想説明会
（兼第２回根室圏域地域医療構想調整会議）議事録（概要）

日　時　　令和元年（2019 年）８月２９日（木）１５：００～１６：３０
場　所　　北海道立北方四島交流センター（ニ・ホ・ロ）２階交流ホール
出席者　　３４名（内　事務局１２名）別紙出席者一覧のとおり
議　題　　１　地域医療構想に関する国及び道の動きについて
　　２　地域の状況について
　　３　質疑応答・意見交換

議　事

（１）　地域医療構想に関する国及び道の動きについて
　北海道保健福祉部地域医療推進局地域医療課から資料説明（小川課長）

（２）　地域の状況について
　事務局から資料説明（鎌田企画主幹：根室保健所）

（３）　質疑応答・意見交換

町立中標津病院）地方・地域センター機能強化事業のうち看護師等派遣の内容及び看護師の地域偏在に対する道の計画について伺いたい

道地域医療課）看護師派遣事業は地方・地域センター機能の一つである周辺医療機関への派遣に対する補助である。地域偏在の解消に関しては、強制的に看護師の少ない地域に送るというのは現実的には難しい。出身者の帰郷を促す、移住推進による確保が基本と思うが、少ない看護師数でも一定の機能を維持できる方策の検討が必要。

町立中標津病院）札幌から離れた地域ではセンター病院自体も従事者不足に悩んでいる状況。外国人看護師の受け入れ門戸を開くことで問題解消は可能。中標津は空港と冷涼な気候により人口減少は推計通りにならず、簡単に病院規模の縮小を行うのは疑問。

道地域医療課）現状ではセンター病院からの派遣事業は難しいかもしれないが、だからこそ、センター病院を中心に機能を集約し、そこにしっかり強い機能を維持していくという議論をお願いしたい。また、人口推計を絶対視する訳ではないが、少し厳しいシナリオも頭に描きながら、現実的な道を考えることは重要。

中標津地域保健室）北海道は他県と違い行政エリアが広く、これによる課題が多くある。そうした中での医師の確保について、医師育成数を今後どうするのかも含めて教えて欲しい。

道地域医療課）地域医療確保のためには、重点的な病院には医師確保を図ることが重要かと思う。
　一方で、地域では人口減少、患者減少により医師数は現状維持又は減少していくだろうという意見もある。外来医師の確保については道も共に取り組みたいが、医育大学からの専門医派遣をこれ以上に増やしていくのは現実的には難しいのではないか。根室地域としては、医療機能をなるべく落とさずに、釧路との広域連携も前提に、地域で確保すべき機能を突き詰めて、これだけはこの人数で確保していこうというものを、自治体間・地域の中で考えることが重要かと思う。

（４）その他

名寄市立大学学長佐古地域医療構想アドバイザーからコメントを受けた（概略以下）。

日本は潜在看護師が多く、離職防止、労働環境の改善が重要。３２名の地域枠医師を活用した玉突きによる医師の派遣実施を道は考えている。新臨床研修制度により医局の派遣能力が半減したうえに昨年度始まった新専門医制度によってますます医師を大学が出しにくい状況になりつつあ

る。圏域である程度医師がいる場合は、集約化により医療機関を強化し、周辺の医療機関にはセンターから医師を派遣する仕組みを考えることが必要。医師少数区域は集約だけでは課題解決とはならないが、現状を維持するためには、集約化は避けられないと思う。大事なのは、医療従事者だけの議論ではなく、首長の賛同。セカンドベスト位のところで、なんとか残すということも考える必要がある。

根室地域が目指す医療体制は、最終的に急性期は一カ所に絞る必要性があると思う。そうでなければ、全てが同じように衰退していく。中核でなくなった自治体の医療機関には中核病院から常勤医、専門外来の医師を派遣する。通院頻度が月１回以上の患者は極めて少ない。釧路から専門医が月１回来てくれれば釧路に行かなくて済む。そういう体制を作っていくような議論をすることで、一定以上に近いような医療機能を維持できるのかと思う。

以上